

九州の自然と歴史に培われた、 伝統の技と心を肌で感じてください。

福岡県



博多織

起源は13世紀頃といわれています。江戸時代の初め、黒田長政が幕府の献上品に指定したことから献上博多と呼ばれました。地質が厚く、独鈷や華皿を圖案化した浮線紋と柳条のある紋様を経糸のみで表しているのが特徴です。簡素で粋な感じの絹織物です。

問)博多織工業組合 TEL 092-472-0761



博多人形

安土桃山時代に、黒田長政の筑前入国に伴い集められた職人たちの中から素焼き人形が生まれたことが始まりといわれています。江戸後期に活況を呈し、美人や歌舞伎、能、風俗など多くの題材が用いられ、素焼きに着色する落着いた美しさときめ細かい細工が特徴です。

問)博多人形工業協同組合 TEL 092-291-4114



八女福島仏壇

19世紀前半に、荘厳華麗な仏壇を模造して作られたことが始まりといわれています。天然漆塗り、純金箔押しなど80余りの工程を駆使した格調高い手作りの仏壇です。形式は、福島型、八女型、八姫型の3種に分類されます。

問)八女福島仏壇仏具協同組合 TEL 0943-24-3941



八女提灯

1816年頃、福島町(現在の八女市)の荒巻文右衛門という人が作ったのが始まりといわれています。八女では、提灯づくりに必要な材料が揃っていたため、生産が活発になりました。盆提灯が主流でしたが、装飾用など用途も多様化し、絵にも新しい感覚が取り入れられています。

問)八女提灯協同組合 TEL 0943-22-5161



久留米緋

19世紀初め、一人の少女により考案されたといわれています。庶民に愛された綿緋で、紺地に白又は青抜きの緋柄が特徴です。絵緋、十文緋など様々な柄があり、趣味性の高い着物や洋装・インテリアなどに幅広く愛用されています。

問)久留米緋協同組合 TEL 0942-44-3701

福岡県



上野焼

17世紀の初め、細川三斎が朝鮮の陶工に上野で登り窯を築造させたのが始まりです。茶陶(茶道に用いる陶器)の他、雑器類も制作していましたが、特に茶陶が高く評価されるようになり、遠州七窯の一つといわれています。陶器としては薄手の美陶が多いのが特徴です。

問)上野焼協同組合 TEL 0947-28-5864



小石原焼

1682年、黒田藩主が肥前伊万里の陶工を招き中国風磁器を伝え、高取焼と交流することで形成されていきました。生乾きの時に紋様を彫る飛びかな、刷毛目、くし目、流し掛け、打ち掛けといった加飾に特徴があります。素朴で温かみのある生活の器が愛好されています。

問)小石原焼陶器協同組合 TEL 0946-74-2266

佐賀県



伊万里・有田焼

17世紀の初め、朝鮮陶工による日本で最初の磁石鉢の発見に始まり、その後、赤絵の完成と相まって隆盛を極めました。白く美しい磁肌や華やかな絵付け、使いやすい丈夫さを考慮した食器などが有名です。また、江戸時代から海外に輸出されており、今日でも人気を集めています。

問)佐賀県陶磁器工業協同組合 TEL 0955-42-3164



唐津焼

起源は、文禄・慶長の役以前に遡るが、盛んに焼かれるようになったのは慶長の役以降です。土味と素朴な作風に特徴があり、砂目の多い土を用いて描かれている文様は野趣に富んでいます。特に茶陶(茶道に用いる道具)が有名です。

問)唐津焼協同組合 TEL 0955-73-4888
武雄古唐津焼協同組合

長崎県



三川内焼

16世紀末期、朝鮮の陶工によって開窯され、江戸時代には平戸藩の御用窯として栄えました。良質の天草陶石にコバルト色の呉須下絵を染め付けた磁器で、中でも唐風の子供数人が遊ぶ様子を描いた「唐子絵」は有名です。日用品から装飾品まで幅広く生産されています。

問)三川内陶磁器工業協同組合 TEL 0956-30-8311

長崎県



波佐見焼

16世紀末期、大村藩主が朝鮮から伴った陶工によって始められたといわれています。その後、大村藩の手厚い保護を受けて栄えてきました。良質の天草陶石を用いた透けるような白磁の美しさと、呉須で絵付けされた「染め付け」の繊細な味わいが特徴です。

問)波佐見陶磁器工業協同組合 TEL 0956-85-3003

熊本県



小代焼

細川志利の熊本移封にとまない、陶工が熊本北部小代山麓に開窯してから約四百年の歴史があります。茶陶は素朴で力強い作風が多くの人々に愛用されています。小代山特産の小代粘土を使い、古えの手法が現在まで継承され、今日では、広く日用雑器に使用されています。

問)小代焼窯元の会 TEL 0968-63-1421(荒尾市商工観光課)

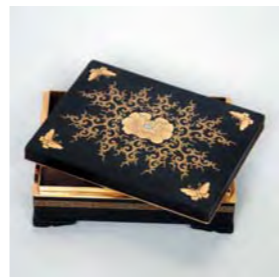


天草陶磁器

天草陶磁器は、島内で豊富に産出される天草陶石・陶土を使って焼かれる磁器・陶器です。透明感のある純白の磁器や木灰釉を使った暖かみのある風合いの磁器が特徴。陶器は性質の異なる釉薬の二重掛けによる赤海鼠や黒釉を使った個性的な作品が多いのが特徴です。

問)天草陶磁振興協議会 TEL 0969-36-0005

大分県



肥後象がん

17世紀初頭に細川家に仕えた林又七が鉄砲や刀の鐙に象がんを施したのが祖とされています。藩の保護奨励の下、江戸時代に絶頂期を迎えた。明治時代廃刀令以降、装身具・装飾品に転じ、その後の時代とともに作品は多様化しています。素朴で優雅な品格が特徴です。

問)肥後象がん振興会 TEL 096-355-1837

大分県



別府竹細工

室町時代に、行商用の籠を作って売り出したことが始まりといわれ、別府温泉の湯治客の土産物として有名になりました。別府は竹の産地でもあり、8種類の技法を基本として作られています。真竹を用いた平ヒゴの作品に特徴があります。

問)別府竹製品協同組合 TEL 0977-22-4074

宮崎県

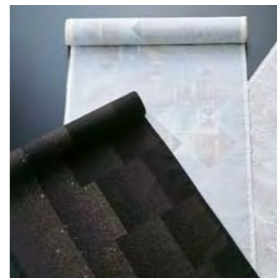


都城大弓

江戸時代後半より都城島津家で盛んに弓が製造されてきましたが、明治期に、鹿児島県川内地区から弓の仕上げ免許を受けた楠見善治が移住したのをきっかけに、大産地となりました。真竹とハゼを材料に手作りで製造しています。

問)都城弓製造業協同組合 TEL 0986-24-0667

鹿児島県



本場大島紬

産地を形成したのは18世紀初期です。その後、宮崎・鹿児島にも技法が伝わりました。縦縞は、独特の締め機を用いて作られます。また「泥染め」の技法も有名です。しなやかで軽くしわになりにくいのが特徴です。

問)鹿児島本場大島紬(協)連合会 TEL 0997-52-3411
鹿児島県絹織物(工) TEL 099-258-1102
都城絹織物事業(協) TEL 0986-22-1895



川辺仏壇

起源は12世紀初頭といわれています。その後、島津家が一向宗を禁圧したため、19世紀中頃には「隠し仏壇」としてその技法が確立しました。杉、松等を木地として天然黒漆塗り等の7つの分業により製作された総合工芸品です。やや小ぶりな堅牢な作りが特徴です。

問)鹿児島県川辺仏壇協同組合 TEL 0993-56-0240



薩摩焼

16世紀末期、島津藩主が朝鮮から伴った陶工たちにより始められ、堅野系、苗代川系、龍門司系、など複数の系統が発生。多様性・地域の広範性は全国的にも稀です。大別すると、白色素地に絵付けの「白薩摩」と、有色素地に各種の色釉で覆った「黒薩摩」があります。

問)鹿児島県陶協同組合 TEL 099-292-5156



「伝統誇る手づくりの証」

伝統証紙が貼られている製品は経済産業大臣が指定した技術、技法、原材料で製作され、産地検査に合格した証です。

見て、触れて、体感できる6日間！



国指定の九州19産地の伝統工芸品を一堂に集めて展示いたします。九州のもの作りは秀吉時代の朝鮮陶工をはじめ、この地に永い歴史を刻んでいます。今に息づく歴史と伝統、心と技をその目で、肌で感じ取ってください。



博多織、博多人形、上野焼、八女福島仏壇、久留米緋、小石原焼の製作実演を6日間に渡って日替わりで紹介いたします。普段では見ることの出来ない職人達の練達の手技にじっくりと触れて下さい、きっと他では味わえない感動が待っています。



博多織、博多人形、上野焼、八女福島仏壇、久留米緋の製作を体験出来ます。同じ道具を使って日替わりで紹介いたします。職人さん達が一緒に丁寧に教えてくれるので小さなお子さまでも安心です。家や学校では出来ない勉強が出来ます。

「伝統的工芸品月間」とは

九州には、各地に長い歴史を持つ伝統的工芸品が数多く存在しますが、後継者の確保難・伝統的な技術の消滅等の厳しい環境に置かれ、産業としての基盤を危ぶまれてきました。昭和49年5月に「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」が制定され、以後、同法を軸として伝統的工芸品産業の維持・発展を図るため、各種の振興施策が講じられてきました。同法制定10周年を機会に、昭和59年に創設されたのが、「伝統工芸品月間」です。

●お問い合わせは

伝統的工芸品月間推進九州協議会
〈事務局〉九州経済産業局地域経済部製造産業課
TEL/092-482-5446
住所/〒812-8546 福岡市博多区博多駅東2-11-1